

共同研究
事例①
テーマ

廃食油燃料(BDF)活用に向けた モデル事業の実践

共同研究者・NPO法人川崎市民石けんプラント・川崎市

概要 市内の一般家庭から回収した廃食油（使用済み食用油）をバイオディーゼル燃料化し、車両の燃料として利用する際の排ガス性状分析、ごみ収集車両による実走行試験を行い、二酸化炭素削減効果等をLCA※手法を用いて評価しました。さらに、LCAを踏まえ廃食油の回収から製造、使用に至るまでの一連のモデル事業を試験的に実践し、今後のBDF活用に向けた問題点、課題点について検証を行いました。

川崎市は、試験車両の提供、実走行試験の実施、シャーシダイナモ試験（排ガス性状等の把握）の実践に向けた調整、取組内容の情報発信等を、NPO法人川崎市民石けんプラントは、廃食油（使用済み食用油）の回収、バイオディーゼル燃料製造に係る調整、バイオディーゼル燃料製造事例の実態調査等をそれぞれ分担しました。

本研究によって、今後の廃食油燃料化事業やバイオディーゼル燃料活用の検討に資する貴重なデータや成果を得ることができました。

※LCA (Life Cycle Assessment) : 製品が製造、運搬、使用、廃棄あるいは再使用されるまでのすべての過程を通して、製品が環境に与える負荷の大きさを定量的に整理・評価する方法のこと。



NPO法人
川崎市民石けんプラント
ステッカーを貼って
走行実験

共同研究に参加した代表の方の感想

共同研究事業の3年間で事業化に進める足がかりとして多くの基礎情報を得ることができました。市民事業である私たちにとってLCA評価、シャーシダイナモ試験、清掃車による走行実験など単独ではできない貴重な実践ができました。また、事業を通してさまざまなバイオディーゼル燃料の現場を視察し、多くの方との出会いと情報が得られたことは大きな成果です。これまでの成果をもとに事業モデルに踏み出したいと思っております。情報センターが中心となり各所の調整役をしてくださったことに感謝します。

共同研究者概要

団体名：NPO法人
川崎市民石けんプラント
所在地：川崎市川崎区
設立：2005年3月
(前身の団体有)
活動概要：使用済み食用油の回収、リサイクル石けん「きなりっこ」の製造販売 等



KAWASAKI CITY
川崎市

共同研究に参加した感想

共同研究を通じて、バイオディーゼル燃料に関する様々な主体との連携体制が構築できました。また、LCAに関する知見やモデル事業の実践により、今後のBDF活用に向けた問題点、課題点を抽出できたことは大きな成果です。